



表8-9-46 重要な魚類の予測結果 (31. ウナギ)

科名	ウナギ科		 <p>確認個体 (H23. 7. 26撮影)</p>
種名	ウナギ		
重要性	情報不足 (DD) (汽水・淡水魚類レッドリスト) 〈減少の要因〉 水産有用魚で、シラスウナギ、成魚とともに漁獲量がこの30年で約1/3に減少した。河口部で遡上個体を採捕すること、堰などで遡上が妨げられることが原因と考えられる。保護対策としてシラスウナギの採捕を制限している。_2)		
一般的な 形態・生態等	生息環境	マリアナ諸島西方海域で産卵、孵化後、河口部に達した葉形幼生は、変態してシラスウナギとなり、河川を遡上して成長する。生態に関しては不明な点が多い。_2)	
	形態	全長100cmに達する。体は細長く、背部は暗色、腹部は白色の降河回遊魚。_2)	
	分布の概要	北海道中部以南の日本各地、朝鮮半島南部と西部、台湾、中国、ベトナム、ルソン島などに分布。_2)	
確認状況	Aブロックで1地点(2個体)、Bブロックで2地点(約30個体)、Cブロックで3地点(7個体)、Dブロックで2地点(5個体)、河川において確認された。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	本種の生息環境となる河川は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、工事に伴う濁水の流出防止に十分配慮するとともに、同様の環境はA・B・C・Dブロックに広く分布する。 また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。 以上のことから、本種の生息環境は残ると予測される。		


備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10 (河川・ため池・湿地) を参照。

表8-9-47 重要な魚類の予測結果 (32. メダカ)

科名	メダカ科		
種名	メダカ		
重要性	準絶滅危惧 (NT) (レッドデータブックあいち2009) 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) (汽水・淡水魚類レッドリスト)		
	<p>〈レッドデータブックあいち2009選定理由〉 現在までに知られている分布域の一部で、生息条件が明らかに悪化しており、個体数が減少しつつある。平野地域での小川や細流の整備による水系の不連続等による影響を大きく受けている。_1)</p> <p>〈減少の要因〉 大・中河川の支流や用水路等に広く分布するが、その生息量は減少しており、数十尾という大群はほとんどみられない。100m区間に数尾という状況が多い。水田や用水路、さらに小川が改修され、水路の断絶に関連して生息場所が減少していることや、同所に生息するカダヤシ等の外来魚がメダカの卵や仔・稚魚を食すること等による影響が大きい。_1)</p>		
一般的な 形態・生態等	生息環境	平野部の池や湖、水田、大・中河川の下流域の淀み等に生息し、塩分に対する耐性も強い。食性は雑食性であり、上流から流れてくるものを摂る。産卵は春～秋にかけて行われ、受精された卵はしばらくの間、雌の腹部に付着した状態である。5～6月に孵化したものは、夏には成熟し産卵する。_1)	
	形態	体長は4cm以下で、体色は淡い黄色味を帯びた灰褐色を呈する。側線は不明で、ヒゲを欠く。尾鰭が角張っている点でカダヤシと区別できる。_1)	
	分布の概要	本州以南、琉球列島まで分布する。_1)	
	生息地 (愛知県内)	県内全域に広く分布し、細流や用水に多いが木曾川水系等では本流にも点々と生息している。しかし、生息量は多くなく、生息状況には年変動が大きく不明な点が多い。_1)	
確認状況	Bブロックで1地点(4個体)、Dブロックで2地点(4個体)、河川において確認された。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	本種の生息環境となる河川や用水路等は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、工事に伴う濁水の流出防止に十分配慮するとともに、同様の環境はA・B・C・Dブロックに広く分布する。 また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。 以上のことから、本種の生息環境は残ると予測される。		

備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10 (河川・ため池・湿地) を参照。

表8-9-48 重要な魚類の予測結果 (33. トビハゼ)

科名	ハゼ科		 <p>確認個体 (H23. 7. 28撮影)</p>
種名	トビハゼ		
重要性	準絶滅危惧 (NT) (汽水・淡水魚類レッドリスト) 〈減少の要因〉 主な減少要因は埋め立て、河川改修、護岸整備、水質汚染。近交化進行が懸念される。_2)		
一般的な 形態・生態等	生息環境	内湾湾奥や河口域の泥干潟に生息し、日中の干出時に干潟上で活動し、それ以外は岸边には上がり休息する。冬は穴で過ごす。_2)	
	形態	最大全長10cm。頭と体は円筒形で後方はやや側扁する。眼は上方に突出する。体側に微小黒色点が散在する。_2)	
	分布の概要	国内では東京湾および福岡県日本海側から種子島、瀬戸内海、有明海、屋久島、沖縄島、国外では勃海、黄海、東・南シナ海、台湾に分布する。_2)	
確認状況	Aブロックで1地点(2個体)、Bブロックで2地点(9個体)、河口干潟において確認された。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	本種の生息環境となる干潟は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、工事に伴う濁水の流出防止に十分配慮するとともに、同様の環境はA・Bブロックの河川河口部に広く分布する。 また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。 以上のことから、本種の生息環境は残ると予測される。		

備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10 (河川・ため池・湿地) を参照。

表8-9-49 重要な魚類の予測結果 (34. マサゴハゼ)

科名	ハゼ科		 <p>確認個体 (H23. 10. 12撮影)</p>
種名	マサゴハゼ		
重要性	絶滅危惧Ⅱ類(VU) (汽水・淡水魚類レッドリスト) 〈減少の要因〉 埋め立て、護岸工事、土砂流入、水質汚染などにより生息地の消失や環境悪化が進行している。生息地は都市部に隣接することが多いことから、河川および近接する陸域や水域の環境変化に対し最も早く影響を受ける所である。_2)		
一般的な 形態・生態等	生息環境	良好な環境の保たれたヨシ帯や、マングローブ林の発達する河口干潟や塩水湿地に生息する。砂底から砂泥底の岸際の浅くやや平坦な場所に多い。_2)	
	形態	最大全長3cm。頭はやや縦扁し、体はやや細長く側扁した円筒形。吻は丸く突出する。体高が低い、尾鰭基底にくさび形の黒色斑があるなどの特徴で近似のスナゴハゼと区別できる。_2)	
	分布の概要	日本国内では宮城県から愛媛県にかけての太平洋沿岸、佐賀県から壱岐、対馬、五島列島を経て鹿児島県にかけての日本海・東シナ海沿岸、兵庫県から福岡・大分県にかけての瀬戸内海沿岸、佐賀県と熊本県の有明海沿岸、薩南諸島の種子島、琉球列島の奄美大島と沖縄島、国外では朝鮮半島、台湾に分布する。_2)	
確認状況	Aブロックで1地点(約10個体)、Bブロックで1地点(1個体)、河口干潟において確認された。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	本種の生息環境となる干潟は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、工事に伴う濁水の流出防止に十分配慮するとともに、同様の環境はA・Bブロックの河川河口部に広く分布する。 また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。 以上のことから、本種の生息環境は残ると予測される。		


備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10 (河川・ため池・湿地) を参照。

表8-9-50 重要な昆虫類の予測結果 (35. コオイムシ)

科名	コオイムシ科		 <p>確認個体 (H23. 7. 28撮影)</p>
種名	コオイムシ		
重要性	準絶滅危惧 (NT) (環境省第4次レッドリスト) 〈減少の要因〉 水環境の喪失、悪化などにより全国的に減少している。_19) 生活排水の流入や水環境の護岸工事や宅地等の開発によって、容易に絶滅する危険がある。_11)		
一般的な 形態・生態等	生息環境	水深の浅い開放的な止水域に生息し、オタマジャクシ、小魚、ヤゴ、巻貝などを捕食する。_3) 平地から丘陵地・低山帯のある程度の広さをもった池沼・水田に生息する。抽水植物の植生が豊かで、水深はある程度の深さをもった環境が生息条件である。_11)	
	形態	オスが背中で卵塊を保護する有名な昆虫である。体長17～20mm、体は楕円形で淡褐色～黄褐色。_3)	
	分布の概要	国内では本州～九州に分布する。_3)	
確認状況	Dブロックで4地点(4個体)、水田やため池、水路で確認された。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	本種の生息環境となる水生植物がみられる止水域や水田等は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、工事に伴う濁水の流出防止に十分配慮するとともに、同様の環境はC・Dブロックのため池や低地部に広く分布する。 また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。 しかしながら、本種の生息環境の周辺において、道路照明が設置される場合には、夜間の照明に誘引されるなど、行動や生態に対する人工的な照明の影響が生じる可能性がある。 以上のことから、本種の生息環境に影響が生じる可能性があるとして予測される。		

備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10 (耕作地(水田)、河川・ため池・湿地) を参照。

表8-9-51 重要な昆虫類の予測結果 (36. ミヤケミズムシ)

科名	ミズムシ科		 <p>確認個体 (H23. 10. 13採集)</p>
種名	ミヤケミズムシ		
重要性	準絶滅危惧 (NT) (環境省第4次レッドリスト) 〈減少の要因〉 生息地である水生植物が豊富な自然度の高い池沼が顕著に減少した。_9) 外来魚の捕食圧も大きいと考えられる。_11) 戦後の宅地化や農地改良に伴って生息環境が奪われたことや、農薬や各種排水の流入による水質悪化が減少の要因と考えられる。_20)		
一般的な 形態・生態等	生息環境	平野～丘陵部を中心とした地域の、浮葉植物など水生植物の繁茂した自然度の高い池沼に生息し、藻食性。_9) 止水域に生息し小昆虫を捕食する。燈火に飛来することもある。_20)	
	形態	体長は7.2～9.1mm。体は丸みがあり幅広く、強い光沢がある。前胸背板は短く、黒色横帯は6～8本。雄の頭部は三角形状に前方に突出し、顔面中央のくぼみは極めて浅い。_9)	
	分布の概要	本州、四国、九州に分布する。_9)	
確認状況	Dブロックで1地点(約20個体)、ため池において確認された。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	本種の生息環境となる水生植物がみられる止水域や水田等は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、工事に伴う濁水の流出防止に十分配慮するとともに、同様の環境はC・Dブロックのため池や低地部に広く分布する。 また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。 しかしながら、本種の生息環境の周辺において、道路照明が設置される場合には、夜間の照明に誘引されるなど、行動や生態に対する人工的な照明の影響が生じる可能性がある。 以上のことから、本種の生息環境に影響が生じる可能性があるとして予測される。		


備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10 (耕作地(水田)、河川・ため池・湿地)を参照。

表8-9-52 重要な昆虫類の予測結果 (37. コマルケシゲンゴロウ)

科名	ゲンゴロウ科		 <p>確認個体 (H23. 6. 8採集)</p>
種名	コマルケシゲンゴロウ		
重要性	準絶滅危惧 (NT) (環境省第4次レッドリスト) 〈減少の要因〉 生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。 _15) ため池の護岸工事や利用形態の変化により、生息に 適した環境が縮小、消滅する可能性がある。また、 各種開発による生息地の消失も懸念される。 _23)		
一般的な 形態・生態等	生息環境	水生植物の多いため池の浅瀬や放棄水田をおもな生息地としている。_15) 池や沼、湿地、放棄水田など、植物の豊富な浅い水域。生息地付近の灯火にも飛来する。_23)	
	形態	体長2mm前後。体型は卵型で背面を微細な点刻と網目状の印刻が覆う。_15)	
	分布の概要	中東～東アジアまで広く分布する。_15)	
確認状況	Cブロックで1地点(1個体)、河川の植生際において確認された(底生動物調査時)。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	本種の生息環境となる水生植物がみられる止水域や水田等は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、工事に伴う濁水の流出防止に十分配慮するとともに、同様の環境はC・Dブロックのため池や低地部に広く分布する。 また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。 しかしながら、本種の生息環境の周辺において、道路照明が設置される場合には、夜間の照明に誘引されるなど、行動や生態に対する人工的な照明の影響が生じる可能性がある。 以上のことから、本種の生息環境に影響が生じる可能性があるとして予測される。		


備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10(耕作地(水田)、河川・ため池・湿地)を参照。

表8-9-53 重要な昆虫類の予測結果 (38. ルイスツブゲンゴロウ)

科名	ゲンゴロウ科		 <p>確認個体 (H23. 6. 8採集)</p>
種名	ルイスツブゲンゴロウ		
重要性	絶滅危惧Ⅱ類(VU) (環境省第4次レッドリスト) 〈減少の要因〉 埋立。開発。水質汚濁。_21) 池沼、湿地の開発、ため池の管理放棄。各種排水や農業による水質汚染。放棄水田の植生遷移。アメリカザリガニ、オオクチバスなどの外来種の侵入、コイの導入が脅威となっている。_22)		
一般的な 形態・生態等	生息環境	低地の池沼、湿地、放棄水田などの水域に生息する。_9) 大きな河川の浮葉植物の生える落ち堀やため池に生息。_21) 平野部～丘陵部において浮葉植物などの豊かな植生がある、池沼、湿地、放棄水田などの止水域に生息する。_22)	
	形態	体長は3.9～4.7mm。体型は幅広い逆卵形。背面は黄褐色で、上翅の6～7条の黒色縦条は、不規則に断続、合着する。_9)	
	分布の概要	本州、四国、九州に分布する。_9)	
確認状況	Cブロックで1地点(1個体)、河川の植生際において確認された(底生動物調査時)。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	本種の生息環境となる水生植物がみられる止水域や水田等は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、工事に伴う濁水の流出防止に十分配慮するとともに、同様の環境はC・Dブロックのため池や低地部に広く分布する。 また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。 しかしながら、本種の生息環境の周辺において、道路照明が設置される場合には、夜間の照明に誘引されるなど、行動や生態に対する人工的な照明の影響が生じる可能性がある。 以上のことから、本種の生息環境に影響が生じる可能性があるとして予測される。		


備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10(耕作地(水田)、河川・ため池・湿地)を参照。

表8-9-54 重要な昆虫類の予測結果 (39. コガムシ)

科名	ガムシ科		 <p>確認個体 (H23. 10. 13採集)</p>
種名	コガムシ		
重要性	情報不足 (DD) (環境省第4次レッドリスト) 〈減少の要因〉 池や沼の埋め立て、殺虫剤・除草剤の流入、湿原などの乾燥化、大型外来魚の放流。_14) 湿地の攪乱、水質汚染が脅威である。_22)		
一般的な 形態・生態等	生息環境	池や沼、小さな水たまりなどの止水域にもみられる。_14) 平野部～丘陵部の有機物の豊富な浅い池沼、湿地、水田に生息するといわれている。幼虫は肉食性で他の水生昆虫や巻貝などを捕食するが、成虫は主に草食性である。灯火に飛来する。_22)	
	形態	体長16～18mm。体は黒く艶があり、前翅に4本の点線の筋がある。_14)	
	分布の概要	北海道、本州、四国、九州。_14)	
確認状況	Bブロックで1地点(1個体)、Dブロックで3地点(4個体)、水田やため池において確認された。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	本種の生息環境となる水生植物がみられる止水域や水田等は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、工事に伴う濁水の流出防止に十分配慮するとともに、同様の環境はC・Dブロックのため池や低地部に広く分布する。 また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。 しかしながら、本種の生息環境の周辺において、道路照明が設置される場合には、夜間の照明に誘引されるなど、行動や生態に対する人工的な照明の影響が生じる可能性がある。 以上のことから、本種の生息環境に影響が生じる可能性があるとして予測される。		

備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10 (耕作地(水田)、河川・ため池・湿地)を参照。

表8-9-55 重要な昆虫類の予測結果 (40. キオビクビボソハムシ)

科名	ハムシ科		
種名	キオビクビボソハムシ		
重要性	情報不足 (DD) (レッドデータブックあいち2009)		確認個体 (H23. 7. 27採集)
	<p>〈レッドデータブックあいち2009選定理由〉 県内での生息地では、確認される個体数は年々減少している。ツユクサの生育する河川の河原や、公園などで細々と生息しているが、生息基盤は人為的影響を受けやすく脆弱である。河川改修や緑地公園での除草剤散布や、整備事業に伴う工事などが及ぼす影響が危惧される。_1)</p> <p>〈減少の要因〉 里山的環境下に依存する草地性の昆虫で、産卵期が農繁期と重なるため、草刈や除草剤による影響を受けやすいことが減少の要因として考えられる。_1)</p>		
一般的な 形態・生態等	生息環境	越冬成虫を4月下旬から5月上旬にかけてツユクサ上で見ることができる。5月中旬から6月中旬にかけてツユクサの葉浮腋部に産卵し、新成虫は8~9月にかけて出現する。_1)	
	形態	体長4.3~4.5mm。頭部は赤褐色色の頭部を除き黒色。体色は一般に黄褐色。上翅は黒青色、幅広い赤色帯を中央部に装う。触角は暗褐色をしている。特徴のある斑紋により同定は容易である。_1)	
	分布の概要	本州、四国、九州、奄岐、対馬。朝鮮半島・中国。_1)	
	生息地 (愛知県内)	豊根村富山地区佐久間湖畔、豊田市能見町、豊田市猿投町・中金町・竹元町、蒲郡市五井町、名古屋市・小牧市・犬山市・春日井市・豊田市。_1)	
確認状況	Cブロックで1地点(1個体)、草地において確認された。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	本種の生息環境となる草地等は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、同様の環境はC・Dブロックの河川周辺に広く分布する。 また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。 以上のことから、本種の生息環境は残ると予測される。		


備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10(草地)を参照。

表8-9-56 重要な昆虫類の予測結果 (41. フタモンベッコウ)

科名	ベッコウバチ科	
種名	フタモンベッコウ	
重要性	準絶滅危惧 (NT) (環境省第4次レッドリスト)	
	<p>〈減少の要因〉</p> <p>近年特に激減している。営巣場所となっていない隙間の多い古い石垣や家の縁下などが、近年の建築物の構造が変わって、少なくなったことも影響していると思われる。詳細は不明だが、オニグモの個体数の回復が必要条件で、人家周辺だけでなく、豊富な昆虫の生存を可能にする森林の保全が前提になる。_12)</p> <p>オニグモの減少、営巣適地の減少。_25)</p>	
一般的な 形態・生態等	生息環境	大型のオニグモのみを狩り、ノネズミの穴や石垣の隙間などの奥で営巣する。営巣地に古い人家の縁下など暗い地面を選ぶこともある。_12) 森林よりも平地の草地付近に生息する。成虫は年1回夏場に活動し、オニグモの成熟雌を狩り、地中に穴を掘って運び入れ、産卵してから埋め戻しておく。_24)
	形態	体長20～30mm、日本で最大のベッコウバチ。黒色、顔面両側に黄色の斑紋、第3腹板に黄色の横帯。_12)
	分布の概要	中国大陸、朝鮮半島、本州に分布。_12)
確認状況	D地点で1地点(1個体)、林縁の地上で確認された。	
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	本種の生息環境となる樹林地や人家周辺等は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、同様の環境はA・B・C・Dブロックの丘陵地に広く分布する。また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。以上のことから、本種の生息環境は残ると予測される。	


備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10 (樹林地) を参照。

表8-9-57 重要な昆虫類の予測結果 (42. ヤマトアシナガバチ)

科名	スズメバチ科		 <p>確認個体 (H23. 10. 13採集)</p>
種名	ヤマトアシナガバチ		
重要性	情報不足 (DD) (環境省第4次レッドリスト) 〈減少の要因〉 近年いなくなった原因は不明である。_11)		
一般的な 形態・生態等	生息環境	平地に生息し、時には人家の軒下、壁にも巣を造る。_16)	
	形態	腹部第3, 4節色帯上に黄色の紋がないことはキボシアシナガと同じであるが、触覚上面前半が黄褐色。中胸背、中節に2本の縦線がある。_11)	
	分布の概要	本州から沖縄まで分布は広い。_11)	
確認状況	D地点で1地点(1個体)、林縁において確認された。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	本種の生息環境となる樹林地等は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、同様の環境はA・B・C・Dブロックの丘陵地に広く分布する。 また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。 以上のことから、本種の生息環境は残ると予測される。		


備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10 (樹林地) を参照。

表8-9-58 重要な昆虫類の予測結果（43. アカオビケラトリ）

科名	アナバチ科		 <p>確認個体 (H23. 10. 13採集)</p>
種名	アカオビケラトリ		
重要性	準絶滅危惧 (NT) (環境省第4次レッドリスト) 〈減少の要因〉 少なくなったケラが生息可能な田・荒地・川辺・海岸など湿地環境の保全が大切である。南方系種であることから、地球温暖化の影響で生息域を広げる可能性もある。_18)		
一般的な 形態・生態等	生息環境	都市近郊の畑・湿地など（ケラの生息環境）。 ケラの穴に侵入して、ケラを追跡・攻撃し一時的に麻酔して卵を産み付ける。麻痺から醒めたケラは巣穴に戻って生活するが、卵から孵化した幼虫に徐々に体液を吸われて死んでしまう。ケラに捕食寄生する、原始的な習性を持つ狩蜂。_12) 成虫は夏季に出現し、田畑や草間などで活発に活動する。_18)	
	形態	体長14～16mm、腹部第1～3環節に赤ないし暗赤色のバンドがある。_12)	
	分布の概要	本州から南西諸島、フィリピンに分布。_12)	
確認状況	Aブロックで1地点(1個体)、草地において確認された。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	本種の生息環境となる草地や耕作地等は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、同様の環境はA・B・C・Dブロックの低地部に広く分布する。 また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。 以上のことから、本種の生息環境は残ると予測される。		


備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10（草地、耕作地）を参照。

表8-9-59 重要なクモ類の予測結果 (44. コガネグモ)

科名	コガネグモ科		
種名	コガネグモ		
重要性	準絶滅危惧(NT)(レッドデータブックあいち2009)		確認個体(H23.7.28撮影)
	<p>〈レッドデータブックあいち2009選定理由〉 草や木の上に円網を張り生息する全国的に見ても、もっとも普通なクモであったが、近年、都会を中心に減少傾向にある。生息環境の減少が主な要因であろう。現在でも、生息場所によっては個体数の多いところもあるが、今のうちに歯止めをかける必要があり選定した。_1)</p> <p>〈減少の要因〉 生息できる環境の減少が主な要因であるが、他にも原因があるように思われる。現在でも、多産するところもあるが、ほとんどの生息地では個体数が減少している。_1)</p>		
一般的な 形態・生態等	生息環境	草や木の枝の間や軒下などに垂直円網を張り、X字状のかくれ帯(一部省略されることもある)を付け、その中央に止まる。一般に、日当たりのよいところに多い。網の近くに不規則に糸を引き、淡緑色の卵のうを吊す。_1)	
	形態	体長雌20~25mm、雄5~6mm。腹部の黒と黄色の横縞が特徴である。_1)	
	分布の概要	国内の分布は、本州(関東南部以南)、四国、九州、南西諸島である。_1)	
	生息地 (愛知県内)	県内に広く分布する。良好な環境があれば多産するが、都会地では急速に減少している。_1)	
確認状況	Cブロックで2地点(2個体)、Dブロックで10地点(10個体)、草地において確認された。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	本種の生息環境となる草地や樹林地等は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、同様の環境はA・B・C・Dブロックの低地部や丘陵地に広く分布する。また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。以上のことから、本種の生息環境は残ると予測される。		


備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10(樹林地、草地)を参照。

表8-9-60 重要なクモ類の予測結果 (45. シロオビトリノフンダマシ)

科名	コガネグモ科		 <p>確認個体 (H23. 7. 27採集)</p>
種名	シロオビトリノフンダマシ		
重要性	絶滅危惧Ⅱ類(VU) (レッドデータブックあいち2009)		
	<p>〈レッドデータブックあいち2009選定理由〉 県内ではもともと個体数の少ない種であり、観察・採集例も少ない。近年、開発等による生息適地の減少も心配である。_1)</p> <p>〈減少の要因〉 広範囲に分布する割には個体数の少ない種である。草原等生息適地そのもの減少、管理地等での農薬・除草剤の散布等が減少の要因であろう。_1)</p>		
一般的な 形態・生態等	生息環境	昼は、ススキや広葉樹の葉の裏に脚を縮めて止まっている。夜間、草間・樹間に同心円状の水平円網を張り活動する。_1)	
	形態	雌、体長6～8mm、頭胸部は赤褐色、腹部背面の地色は黒褐色～茶褐色、その最広部付近を横に黄白色～白色の帯があり、最後部は淡黄色となる。色彩は個体によって変異がある。雄は小さく、体長1.5mm。_1)	
	分布の概要	国内では、本州・四国・九州・南西諸島に分布する。_1)	
	生息地 (愛知県内)	県内には中北部 (名古屋市千種区・緑区、豊明市、豊田市、岡崎市など) を中心に広く分布する。_1)	
確認状況	Cブロックで2地点(2個体)、耕作地・草地において確認された。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	本種の生息環境となる草地や耕作地等は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、同様の環境はA・B・C・Dブロックの低地部に広く分布する。また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。以上のことから、本種の生息環境は残ると予測される。		

備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10 (草地、耕作地) を参照。

表8-9-61 重要なクモ類の予測結果 (46. ゲホウグモ)

科名	コガネグモ科		 <p>確認個体 (H23. 7. 27採集)</p>
種名	ゲホウグモ		
重要性	<p>準絶滅危惧 (NT) (レッドデータブックあいち2009)</p> <p>〈レッドデータブックあいち2009選定理由〉 県内での分布は広いが、極めて局地的である。個体数も少ない。_1)</p> <p>〈減少の要因〉 採集例は少ない。近年、名古屋市名東区の都市公園を中心とした生息地が確認されている。しかし、県内全般から見ると生息地は局地的で、生息状況は不明の点が多い。_1)</p>		
一般的な 形態・生態等	生息環境	昼は脚を縮めて枯れ枝などの先端に止まっていることが多い。この場合、枯れた木の芽かこぶに似ていて見つけにくい。夜は樹間などに円網を張り活動する。_1)	
	形態	雌体長12～18mm。背甲は赤褐色、腹部背面は黒色で両肩に1個ずつの大きな隆起があり、ほかに多くの小突起がある。腹部の形態は個体によって変異が大きい。雄は、4～6mm。_1)	
	分布の概要	全国的には、本州、四国、九州、南西諸島に分布する。_1)	
	生息地 (愛知県内)	県内では、名古屋市名東区・守山区、常滑市、知多郡武豊町、豊田市、豊明市、岡崎市、豊川市 (旧音羽町) などに分布が知られている。東三河の山地には記録がない。都市公園やその付近の住宅の庭などに多く見られ、分布的にみて不明の点が多い。_1)	
確認状況	Cブロックで1地点 (1個体)、耕作地・草地において確認された。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	本種の生息環境となる樹林地等は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、同様の環境はC・Dブロックの丘陵地に広く分布する。 また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。 以上のことから、本種の生息環境は残ると予測される。		

備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10 (樹林地) を参照。

表8-9-62 重要な貝類の予測結果（47. ヒロクチカノコガイ）

科名	アマオブネガイ科	
種名	ヒロクチカノコガイ	
重要性	絶滅危惧Ⅱ類(VU) (レッドデータブックあいち2009) 準絶滅危惧(NT) (環境省第4次レッドリスト)	
	<p>〈レッドデータブックあいち2009選定理由〉 本種は内湾奥の河口域に発達したアシ原湿地周辺に生息する。本県ではアシ原湿地という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているので本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。_1)</p> <p>〈減少の要因〉 アシ原湿地が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。_1)</p>	
一般的な 形態・生態等	生息環境	アシ原湿地周辺の塩沼やアシ原内の水たまりなど直接河川水の当たらない淀んだ泥干潟を好む。泥上にも生息するが、朽ち木や転石があればその下面に集まる。_1)
	形態	殻径約3.5cmの半球型平巻きで螺塔が現れない。名前の通り殻口は広がる。蓋は半円形で、石灰質。_1)
	分布の概要	中国大陸南部から東南アジア、オーストラリア北部にかけて分布するが、日本本土産と同一種かどうかは注意を要する。国内では東京湾（絶滅）、三河湾、伊勢湾、瀬戸内海、有明海、琉球列島に分布する。_1)
	生息地 (愛知県内)	愛知県での生息場所は著しく減少したと考えられる。県内の分布は現在7カ所である。庄内川、矢作川河口域では健全な個体群が残っているが、他の生息場所では個体数が非常に少ない。_1)
確認状況	Aブロックで1地点(約20個体)、Bブロックで1地点(約10個体)、河口域において確認された。	
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	本種の生息環境となる干潟等は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、工事に伴う濁水の流出防止に十分配慮するとともに、同様の環境はA・Bブロックの河川河口部に広く分布する。 また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。 以上のことから、本種の生息環境は残ると予測される。	



備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10 (河川・ため池・湿地) を参照。

表8-9-63 重要な貝類の予測結果 (48. オオタニシ)




科名	タニシ科		 <p>確認個体 (H23. 3. 3採集)</p>
種名	オオタニシ		
重要性	準絶滅危惧 (NT) (環境省第4次レッドリスト) 〈減少の要因〉 本種の生息する水田周辺の環境は、ため池を含め圃場整備等の人為的改変の影響を強く受け、各地で存続が脅かされている。_2)		
一般的な 形態・生態等	生息環境	河川や用水路、ため池、湖沼に生息する。_2)	
	形態	殻高60mm前後に成長する。螺層は近縁種のマルタニシほど膨らまず、縫合部は浅い。周縁部は角張り、とくに胎児殻ではその傾向が顕著で菱形の概形を呈するが、大型個体では目立たなくなる。_2)	
	分布の概要	北海道から九州にかけて分布する。_2)	
確認状況	Dブロックで1地点(3個体)、ため池において確認された。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	本種の生息が確認されたため池は、工事の実施により改変される可能性があることから、本種の生息環境に影響が生じる可能性があると予測される。		

表8-9-64 重要な貝類の予測結果 (49. ウミニナ)

科名	ウミニナ科		 <p>確認個体 (H23. 3. 4採集)</p>
種名	ウミニナ		
重要性	<p>準絶滅危惧 (NT) (レッドデータブックあいち2009) 準絶滅危惧 (NT) (環境省第4次レッドリスト)</p> <p>〈レッドデータブックあいち2009選定理由〉 東京湾や三浦半島ではホソウミニナ以外の2種に著しい減少傾向が認められる。本県でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。_1)</p> <p>〈減少の要因〉 泥干潟が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。_1)</p>		
一般的な 形態・生態等	生息環境	内湾の泥干潟の表面に生息している。_1)	
	形態	殻高約3cmの塔型で殻は厚く、よく成長した個体の殻口は肥厚し、内唇の滑層は肥厚する。ホソウミニナと近似するが殻が太く、内唇の滑層が肥厚する点で区別できる。_1)	
	分布の概要	日本固有種。北海道南部から九州まで分布する。_1)	
	生息地 (愛知県内)	生息場所は著しく減少したと考えられ、県内の分布は現在10カ所である。生息場所では群生し個体数が多い。特に汐川干潟では大きな個体群が残されている。_1)	
確認状況	Bブロックで1地点(1個体)、河口域において確認された。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	本種の生息環境となる干潟等は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、工事に伴う濁水の流出防止に十分配慮するとともに、同様の環境はA・Bブロックの河川河口部に広く分布する。 また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。 以上のことから、本種の生息環境は残ると予測される。		


備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10 (河川・ため池・湿地) を参照。

表8-9-65 重要な貝類の予測結果 (50. フトヘナタリガイ)

科名	フトヘナタリ科		 <p>確認個体 (H23. 3. 4採集)</p>
種名	フトヘナタリガイ		
重要性	準絶滅危惧 (NT) (レッドデータブックあいち2009) 準絶滅危惧 (NT) (環境省第4次レッドリスト)		
	<p>〈レッドデータブックあいち2009選定理由〉 本種は内湾奥の河口域に発達したアシ原湿地周辺に生息し、特にアシ原群落内に高密度で生息する。本県ではアシ原湿地という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。_1)</p> <p>〈減少の要因〉 アシ原湿地が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。_1)</p>		
一般的な 形態・生態等	生息環境	アシ原湿地、特にアシ原群落内に多く生息する。_1)	
	形態	殻高約4cmの円筒形で殻頂部分は成長にもなって欠落する。殻表は粗い布目状で殻口は反転して肥厚する。蓋は円形で革質。_1)	
	分布の概要	インド太平洋に広く分布。国内では東北以南以南琉球列島に分布する。_1)	
	生息地 (愛知県内)	生息場所は著しく減少したと考えられ、県内の分布は現在13カ所である。現在でもアシ原湿地が残されていれば、かなりまとまった個体数が生息しており(庄内川河口域を除く)、特に三河湾汐川干潟では大きな個体群が残っている。_1)	
確認状況	Aブロックで1地点(7個体)、Bブロックで1地点(約20個体)、河口域において確認された。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	本種の生息環境となる干潟等は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、工事に伴う濁水の流出防止に十分配慮するとともに、同様の環境はA・Bブロックの河川河口部に広く分布する。 また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。 以上のことから、本種の生息環境は残ると予測される。		

備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10(河川・ため池・湿地)を参照。

表8-9-66 重要な貝類の予測結果 (51. サザナミツボ)

科名	サザナミツボ科		 <p>確認個体 (H23. 3. 4採集)</p>
種名	サザナミツボ		
重要性	<p>情報不足 (DD) (レッドデータブックあいち2009) 準絶滅危惧 (NT) (環境省第4次レッドリスト)</p> <p>〈レッドデータブックあいち2009選定理由〉 本種は最近記載された微小種で内湾奥に生息することが知られているが、詳しい生息場所については明らかにされていない。_1)</p> <p>〈減少の要因〉 生息状況については情報不足である。_1)</p>		
一般的な 形態・生態等	生息環境	県内でも生きた個体は採集されていない。ただし、軟体部の残った個体が複数、三河湾、伊勢湾の4カ所から採集されているので、県内に生息していることは確実である。本種は微小種で最近記載されたことなどから、情報は非常に少ない。_1)	
	形態	殻長約2mm微小な卵型の貝。殻は光沢のあるガラス質。殻表にジグザグの螺溝を多数めぐらすことが特徴である。_1)	
	分布の概要	日本でのみ発見されている。浜名湖、三河湾、伊勢湾、的矢湾、瀬戸内海、玄界灘に分布する。_1)	
	生息地 (愛知県内)	打ち上げられた個体が県内4カ所で採集された。_1)	
確認状況	Bブロックで1地点(2個体)、河口域において確認された。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	<p>本種の生息環境となる干潟等は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、工事に伴う濁水の流出防止に十分配慮するとともに、同様の環境はA・Bブロックの河川河口部に広く分布する。</p> <p>また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境は残ると予測される。</p>		


備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10 (河川・ため池・湿地) を参照。

表8-9-67 重要な貝類の予測結果 (52. カワグチツボ)

科名	カワグチツボ科		 <p>確認個体 (H23. 1. 18採集)</p>
種名	カワグチツボ		
重要性	準絶滅危惧 (NT) (レッドデータブックあいち2009) 準絶滅危惧 (NT) (環境省第4次レッドリスト)		
	<p>〈レッドデータブックあいち2009選定理由〉 本種は内湾奥の河口域に発達したアシ原湿地周辺やそれより下部の泥干潟の表面に生息する。本県ではアシ原湿地や泥干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。_1)</p> <p>〈減少の要因〉 アシ原湿地や内湾奥の泥干潟が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。_1)</p>		
一般的な 形態・生態等	生息環境	県内ではアシ原湿地周辺やそれより下部の泥干潟の表面に生息している。_1)	
	形態	殻は殻長約5mmと小型で、長卵形。臍孔は狭いが開く、蓋は革質で薄い。近似種のワカウラツボとは臍孔が開く点、殻が薄い点などで区別される。_1)	
	分布の概要	日本、沿海州、中国、朝鮮に分布する。国内では青森県以南九州までに分布する。_1)	
	生息地 (愛知県内)	生息場所は著しく減少したと考えられ、県内の分布は現在7カ所である。生息場所では群生し、個体数は多い。_1)	
確認状況	Aブロックで1地点(約20個体)、Bブロックで2地点(約120個体)、河口域において確認された。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	本種の生息環境となる干潟等は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、工事に伴う濁水の流出防止に十分配慮するとともに、同様の環境はA・Bブロックの河川河口部に広く分布する。 また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。 以上のことから、本種の生息環境は残ると予測される。		


備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10 (河川・ため池・湿地) を参照。

表8-9-68 重要な貝類の予測結果 (53. ワカウラツボ)

科名	カワグチツボ科		 <p>確認個体 (H23. 6. 7採集)</p>
種名	ワカウラツボ		
重要性	<p>絶滅危惧Ⅱ類(VU) (レッドデータブックあいち2009) 絶滅危惧Ⅱ類(VU) (環境省第4次レッドリスト)</p> <p>〈レッドデータブックあいち2009選定理由〉 本種は内湾奥の河口域に発達したアシ原湿地周辺の転石や朽ち木の下に生息する。本県ではアシ原湿地という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。_1)</p> <p>〈減少の要因〉 上述したようなアシ原湿地が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。_1)</p>		
一般的な 形態・生態等	生息環境	県内では上述したようなアシ原湿地周辺の10cm以上深く埋もれた石や朽ち木の下面に付着している。稀にアシ原群落内の小さな水たまりにたまった朽ち木や落ち葉に付着している。_1)	
	形態	殻は殻長約5mmと小型で、長卵形。臍孔はなく、蓋は革質で薄い。近似種のカワグチツボとは臍孔がない点、殻が厚い点などで区別される。_1)	
	分布の概要	現在まで日本でのみ発見されている。三河湾、伊勢湾、瀬戸内海、有明海に分布する。_1)	
	生息地 (愛知県内)	生息場所は著しく減少したと考えられ、県内の分布は現在4カ所である。生息場所でも個体数は非常に少ない。_1)	
確認状況	Bブロックで1地点(1個体)、河口域において確認された。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	<p>本種の生息環境となる干潟等は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、工事に伴う濁水の流出防止に十分配慮するとともに、同様の環境はA・Bブロックの河川河口部に広く分布する。</p> <p>また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境は残ると予測される。</p>		


備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10 (河川・ため池・湿地) を参照。

表8-9-69 重要な貝類の予測結果 (54. クリイロカワザンショウガイ)

科名	カワザンショウガイ科		
種名	クリイロカワザンショウガイ		
重要性	<p>準絶滅危惧(NT) (レッドデータブックあいち2009) 準絶滅危惧(NT) (環境省第4次レッドリスト)</p> <p>〈レッドデータブックあいち2009選定理由〉 本種は内湾奥の河口域に発達したアシ原湿地周辺に分布する。本県ではアシ原湿地自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。_1)</p> <p>〈減少の要因〉 アシ原湿地が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。_1)</p>		
一般的な 形態・生態等	生息環境	アシ原湿地周辺の落葉の下や湿った土壌の表面に生息する。湿度が高いときにはアシに登る。_1)	
	形態	殻高約7mm殻径約3mmの小型種。本種は螺塔が高く、貝殻が濃い栗色であることが特徴である。_1)	
	分布の概要	日本固有種。東北地方から九州にかけて分布する。_1)	
	生息地 (愛知県内)	生息場所は著しく減少したと考えられ、県内では15カ所生息地がある。生息地では群生する。_1)	
確認状況	Aブロックで1地点(1個体)、Bブロックで2地点(約50個体)、河口域において確認された。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	<p>本種の生息環境となる干潟等は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、工事に伴う濁水の流出防止に十分配慮するとともに、同様の環境はA・Bブロックの河川河口部に広く分布する。</p> <p>また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境は残ると予測される。</p>		


備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10 (河川・ため池・湿地) を参照。

表8-9-70 重要な貝類の予測結果 (55. ムシヤドリカワザンショウガイ)

科名	カワザンショウガイ科		 <p>確認個体 (H23. 6. 6採集)</p>
種名	ムシヤドリカワザンショウガイ		
重要性	準絶滅危惧 (NT) (レッドデータブックあいち2009) 準絶滅危惧 (NT) (環境省第4次レッドリスト)		
	<レッドデータブックあいち2009選定理由> 本種は内湾奥の河口域に発達したアシ原湿地周辺に分布する。本県ではアシ原湿地自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。_1) <減少の要因> アシ原湿地が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。_1)		
一般的な 形態・生態等	生息環境	アシ原湿地周辺の落葉の下や湿った土壌の表面に生息する。湿度が高いときにはアシに登る。_1)	
	形態	殻高約6mmの小型種。本種は螺塔がやや高く、貝殻の色彩が赤く、縫合付近に黄色い帯が入るので区別できる。臍孔はない。_1)	
	分布の概要	日本固有種。本州北部以南から九州にかけて分布する。_1)	
	生息地 (愛知県内)	生息場所は著しく減少したと考えられ、県内では15カ所生息地がある。生息地では群生する。_1)	
確認状況	Aブロックで1地点(1個体)、河口域において確認された。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	本種の生息環境となる干潟等は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、工事に伴う濁水の流出防止に十分配慮するとともに、同様の環境はA・Bブロックの河川河口部に広く分布する。 また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。 以上のことから、本種の生息環境は残ると予測される。		


備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10 (河川・ため池・湿地) を参照。

表8-9-71 重要な貝類の予測結果 (56. ウミゴマツボ)

科名	ミズゴマツボ科		 <p>確認個体 (H23. 6. 7採集)</p>
種名	ウミゴマツボ		
重要性	<p>準絶滅危惧 (NT) (レッドデータブックあいち2009) (※エドガワミズゴマツボとして記載)</p> <p>準絶滅危惧 (NT) (環境省第4次レッドリスト)</p> <p>〈レッドデータブックあいち2009選定理由〉 本種は内湾奥の河口域に発達したアシ原湿地周辺やそれより下部の泥干潟の表面に生息する。本県ではアシ原湿地や泥干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。_1)</p> <p>〈減少の要因〉 アシ原湿地や内湾奥の泥干潟が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。_1)</p>		
一般的な 形態・生態等	生息環境	県内ではアシ原湿地周辺やそれより下部の泥干潟の表面に生息している。_1)	
	形態	殻は殻長約2mmと微小で、卵形。殻口は体層から狭まり円形。臍孔はない。_1)	
	分布の概要	日本固有種。東京湾以南九州まで分布する。_1)	
	生息地 (愛知県内)	生息場所は著しく減少したと考えられ、県内の分布は現在8カ所である。生息場所では群生し、個体数は多い。_1)	
確認状況	Aブロックで1地点(3個体)、Bブロックで2地点(約360個体)、河口域において確認された。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	<p>本種の生息環境となる干潟等は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、工事に伴う濁水の流出防止に十分配慮するとともに、同様の環境はA・Bブロックの河川河口部に広く分布する。</p> <p>また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境は残ると予測される。</p>		


備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10 (河川・ため池・湿地) を参照。

表8-9-72 重要な貝類の予測結果 (58. ナガオカモノアラガイ)

科名	オカモノアラガイ科		 <p>確認個体 (H23. 5. 17撮影)</p>
種名	ナガオカモノアラガイ		
重要性	準絶滅危惧 (NT) (レッドデータブックあいち2009) 準絶滅危惧 (NT) (環境省第4次レッドリスト)		
	<p>〈レッドデータブックあいち2009選定理由〉 陸生貝類ではあるが、湖沼、小川などの水辺のマコモ等の挺水植物の茎や葉に着生するオカモノアラガイの一種である。近年平野部の水辺は改変されたり、護岸工事されることが多く、近年本種の生息場所が著しく減少している。_1)</p> <p>〈減少の要因〉 県内各地の池沼の水辺のマコモ等の茎葉に生息するが、生息地が急激に狭められている。河川改修や池沼の改修埋め立て等による生息地の減少が原因と考えられる。_1)</p>		
一般的な 形態・生態等	生息環境	河川池沼の岸のマコモ等の挺水植物の茎や葉に着生し、発生に著しいむらがある。_1)	
	形態	殻は薄く、紡錘形。殻高12.5mm、殻径6.5mm、2 1/2層。 淡水産のモノアラガイを少し引き伸ばした形で、殻口は肥厚しない。眼は触角の先についている。体層が全長のほとんどを占める。_1)	
	分布の概要	関東地方から九州地方に分布する。_1)	
	生息地 (愛知県内)	県内でも各地の池沼河川の水辺に分布する。_1)	
確認状況	Cブロックで2地点(4個体)、Dブロックで1地点(1個体)、河川沿いの草地において確認された。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	本種の生息環境となる抽水植物がみられる水際は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑えるとともに、同様の環境はC・Dブロックの河川や水路の周辺等に広く分布する。 また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。 以上のことから、本種の生息環境は残ると予測される。		


備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10 (河川・ため池・湿地) を参照。

表8-9-73 重要な貝類の予測結果 (59. ウネナシトマヤガイ)

科名	フナガタガイ科		 <p>確認個体 (H23. 1. 18採集)</p>
種名	ウネナシトマヤガイ		
重要性	準絶滅危惧 (NT) (環境省第4次レッドリスト) 〈減少の要因〉 各地で河川改修や内湾の海岸開発、土地造成、道路工事などで生息地の消失が目立っている。_2)		
一般的な 形態・生態等	生息環境	転石の下側面、礫やマガキ礁の隙間に足糸で付着している。_2)	
	形態	殻長30～40mmの楕円形から長方形で、殻頂は前方に寄る。殻頂から後背端にかけて稜角が走るが、老成個体では摩耗し不明瞭になる。_2)	
	分布の概要	東北地方以南の汽水域に分布する。瀬戸内海に流入する本州の河川河口では多産する。_2)	
確認状況	Aブロックで1地点(9個体)、Bブロックで2地点(約30個体)、河口域において確認された。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	本種の生息環境となる干潟等は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、工事に伴う濁水の流出防止に十分配慮するとともに、同様の環境はA・Bブロックの河川河口部に広く分布する。 また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。 以上のことから、本種の生息環境は残ると予測される。		

備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10 (河川・ため池・湿地) を参照。

表8-9-74 重要な貝類の予測結果 (60. ヤマトシジミ)

科名	シジミ科		
種名	ヤマトシジミ		
重要性	準絶滅危惧 (NT) (環境省第4次レッドリスト) 〈減少の要因〉 日本で漁獲される食用シジミのほとんどが本種であるが、近年、各地の漁獲量は減少が続き、この傾向が継続することが憂慮されている。減少の原因としては湖沼、河川、海岸の開発のほか、漁獲圧も無視できないと考えられる。_2)		
一般的な 形態・生態等	生息環境	河川の河口周辺の汽水域や海岸沿いの汽水湖に生息する。_2)	
	形態	殻長20mm前後の個体が多いが最大で50mm程度にまで成長する。殻表面にはウルシ様の光沢があり、成長脈に沿った輪肋は細かく密である。殻色は黒褐色のものが多く、淡い黄褐色のものもあり、大型個体ではほぼ真っ黒になる。_2)	
	分布の概要	北海道から九州にかけて分布する。_2)	
確認状況	Aブロックで1地点(約270個体)、Bブロックで2地点(約260個体)、河口域において確認された。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	本種の生息環境となる干潟等は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、工事に伴う濁水の流出防止に十分配慮するとともに、同様の環境はA・Bブロックの河川河口部に広く分布する。 また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。 以上のことから、本種の生息環境は残ると予測される。		

備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10 (河川・ため池・湿地) を参照。

表8-9-75 重要な貝類の予測結果 (61. オオノガイ)

科名	オオノガイ科		 <p>確認個体 (H23. 3. 4採集)</p>
種名	オオノガイ		
重要性	準絶滅危惧 (NT) (レッドデータブックあいち2009) 準絶滅危惧 (NT) (環境省第4次レッドリスト)		
	<p>〈レッドデータブックあいち2009選定理由〉 本県でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。_1)</p> <p>〈減少の要因〉 干潟の環境は破壊されているため、本種の生息場所、生息数とも減少したと考えられる。_1)</p>		
一般的な 形態・生態等	生息環境	本種は内湾奥部の泥干潟に深く潜って生息する。本種は太い水管が食用となり、現在でも自家消費的に採集されている。_1)	
	形態	殻長約9cmと殻は大型であるが薄く、膨らみはやや弱い。殻は白色で、生きている時は褐色の殻皮を被る。_1)	
	分布の概要	日本、朝鮮半島、中国。国内では北海道以南九州まで分布する。_1)	
	生息地 (愛知県内)	本種は現在でも汐川干潟、一色干潟などの三河湾奥部に健全な個体群が残っている。_1)	
確認状況	Bブロックで1地点(4個体)、河口域において確認された。		
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	本種の生息環境となる干潟等は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、工事に伴う濁水の流出防止に十分配慮するとともに、同様の環境はA・Bブロックの河川河口部に広く分布する。 また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。 以上のことから、本種の生息環境は残ると予測される。		

備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10 (河川・ため池・湿地) を参照。

表8-9-76 重要な貝類の予測結果 (62. ソトオリガイ)

科名	オキナガイ科	
種名	ソトオリガイ	
重要性	準絶滅危惧(NT) (レッドデータブックあいち2009)	
	<p>〈レッドデータブックあいち2009選定理由〉 本県でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。_1)</p> <p>〈減少の要因〉 干潟の環境は破壊されているため、本種の生息場所、生息数とも減少したと考えられる。_1)</p>	
一般的な 形態・生態等	生息環境	本種は内湾の河口域や奥部の泥干潟に生息する。_1)
	形態	殻長約5cmで、殻は長楕円形で膨らみは強い。殻は非常に薄く、白色で半透明。後端は開く。_1)
	分布の概要	日本、中国、東南アジア。国内では北海道以南九州まで分布する。_1)
	生息地 (愛知県内)	本種は現在でも汐川干潟、豊川河口域、矢作川河口域などの三河湾奥部に健全な個体群が残っている。_1)
確認状況	Aブロックで1地点(8個体)、Bブロックで2地点(約40個体)、河口域において確認された。	
予測結果 (工事の実施及び道路の存在)	<p>本種の生息環境となる干潟等は、工事の実施により一部改変されるが、改変量は最小限に抑え、工事に伴う濁水の流出防止に十分配慮するとともに、同様の環境はA・Bブロックの河川河口部に広く分布する。</p> <p>また、道路の存在によって、工事による改変以外に新たな改変はない。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境は残ると予測される。</p>	



確認個体 (H23. 3. 4採集)

備考) 生息環境の改変の程度については「第8章第11節生態系」表8-11-7及び表8-11-10 (河川・ため池・湿地) を参照。

【引用・参考文献】

- 1) レッドデータブックあいち2009 (愛知県)
- 2) 改訂レッドリスト付属説明資料 (平成22年、環境省)
- 3) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 (レッドデータブック) 鳥類 (平成14年、環境省)
- 4) 大阪府における保護上重要な野生生物 大阪府レッドデータブック (大阪府)
- 5) 原色日本野鳥生態図鑑<水鳥編> (平成7年、中村登流・中村雅彦、保育社)
- 6) 猛禽類保護の進め方 (改訂版) (平成24年、環境省)
- 7) 図鑑日本のワシカ類 (平成7年、森岡照明他、文一総合出版)
- 8) 野鳥識別ハンドブック (昭和55年、(財)日本野鳥の会)
- 9) 滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック2010年版 (滋賀県)
- 10) 日本の両生類・爬虫類 (昭和60年、松井孝爾、小学館)
- 11) 埼玉県レッドデータブック2008 動物編 (埼玉県)
- 12) 京都府レッドデータブック 野生生物編 (平成14年、京都府)
- 13) 長野県版レッドデータブック 動物編 (平成16年、長野県)
- 14) 富山県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックとやま (平成14年、富山県)
- 15) 改訂 しまねレッドデータブック 鳥根県の絶滅のおそれのある野生動植物 (平成16年、鳥根県)
- 16) レッドデータブックとちぎ (平成17年、栃木県)
- 17) 岡山県レッドデータブック2009 絶滅のおそれのある野生生物 (岡山県)
- 18) 千葉県の保護上重要な野生生物-千葉県レッドデータブック-動物編 (2011年改訂版) (千葉県)
- 19) まもりたい静岡県の野生生物-県版レッドデータブック-動物編 (平成16年、静岡県)
- 20) 愛媛県レッドデータブック~愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物~ (平成15年、愛媛県)
- 21) 宮崎県版レッドデータブック 宮崎県の保護上重要な野生生物 (平成12年、宮崎県)
- 22) 改訂・石川県の絶滅のおそれのある野生生物 いしかわレッドデータブック<動物編>2009 (石川県)
- 23) 香川県レッドデータブック 香川県の希少野生生物 (平成16年、香川県)
- 24) 青森県レッドデータブック (2010年改訂版) (青森県)
- 25) 神奈川県レッドデータブック 2006 WEB版 (神奈川県)